

「未来」を見ながら進めるべき仕事

# 地域に資金／資源が循環 する戦略 2

## 農業



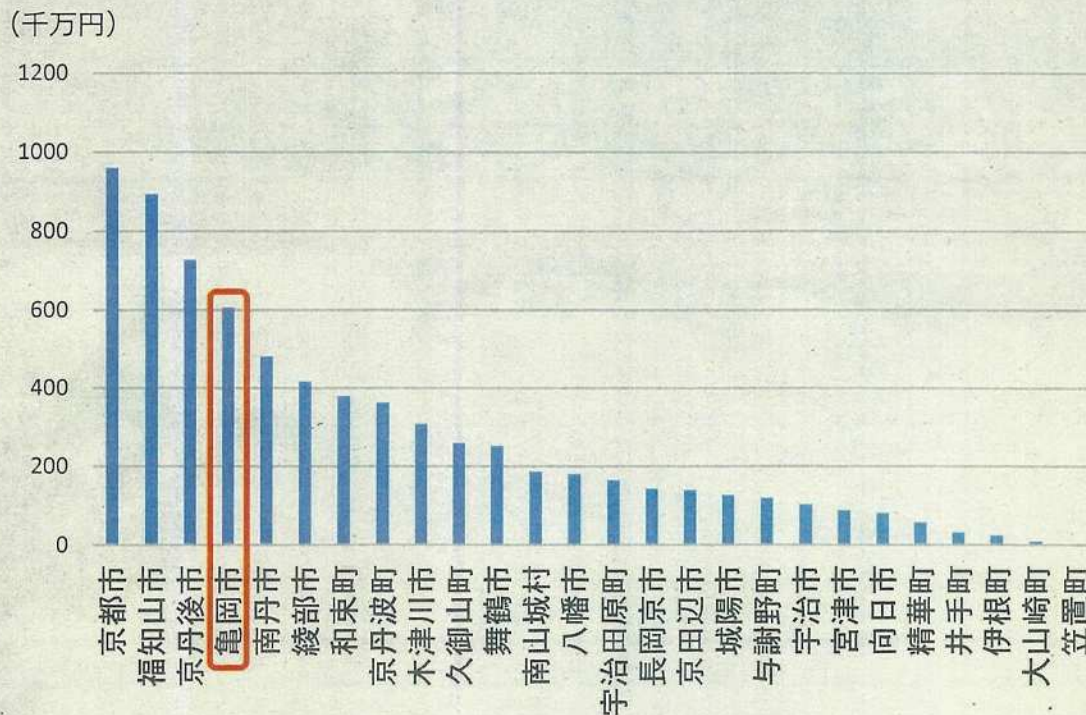




# 京都府における亀岡市の農業の「実力」

- 亀岡市の農業産出額は61億円（2015年）。京都府内市町村のうち4番目。
- 京都府全体の農業産出額712億円のうち、亀岡市は1割を占める。

京都府内の各市町村の農業産出額（2015年）



全体に占める割合（〃年）



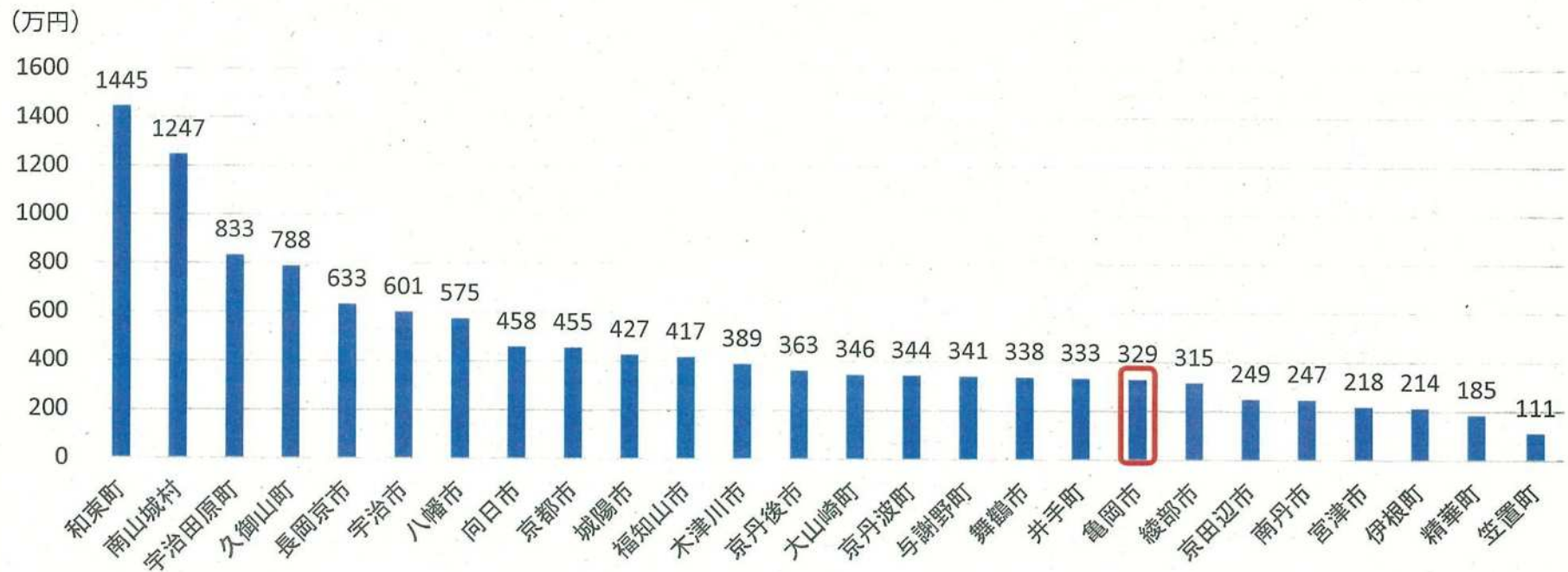
(出典) 内閣府RESAS「産業構造マップー農業」をもとに算出。



# 経営体の平均的な産出額（生産性）

- 2015年における亀岡市の「農業経営体あたりの農業産出額」は329万円。
- 京都府内市町村のうち、**8番目に小さい**。

農業経営体あたりの農業産出額（2015年）



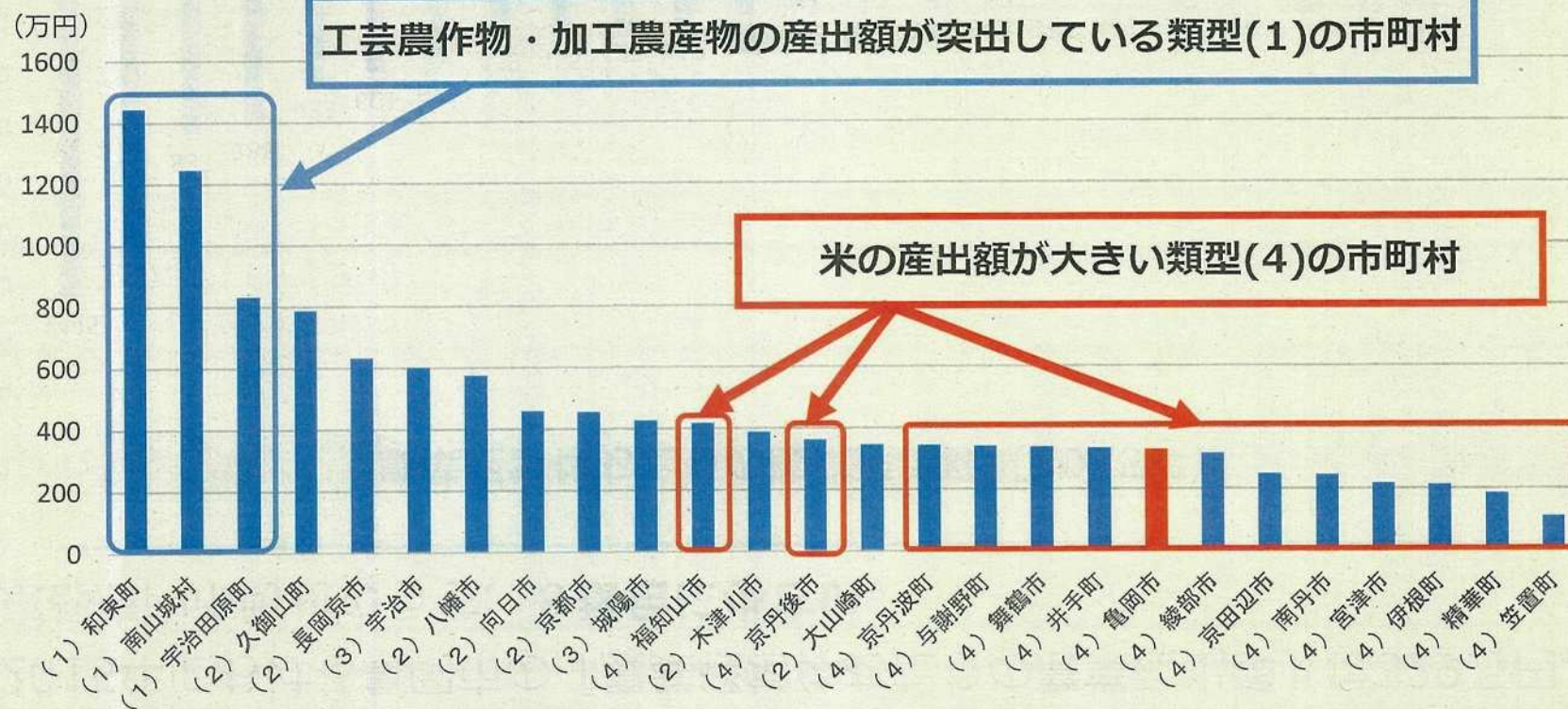
(出典) 内閣府RESAS「産業構造マップー農業」をもとに算出。



# 経営体の平均的な産出額（生産性）

- 米の産出額が大きい類型（4）の市町村では、生産性が低い傾向にある。
- これは、米は他作物に比して土地生産性が低いためと考えられる。

## 農業経営体あたりの農業産出額（2015年）



(1)=工芸農作物・加工農産物の産出額が突出している類型、(2)=野菜の産出額のみが突出している類型、(3)=米・野菜・花き・工芸・加工農産物のバランスが取れている類型、(4)=米の産出額が大きい（野菜の産出額も同程度に大きい亀岡市・南丹市・京丹波町を含む）類型

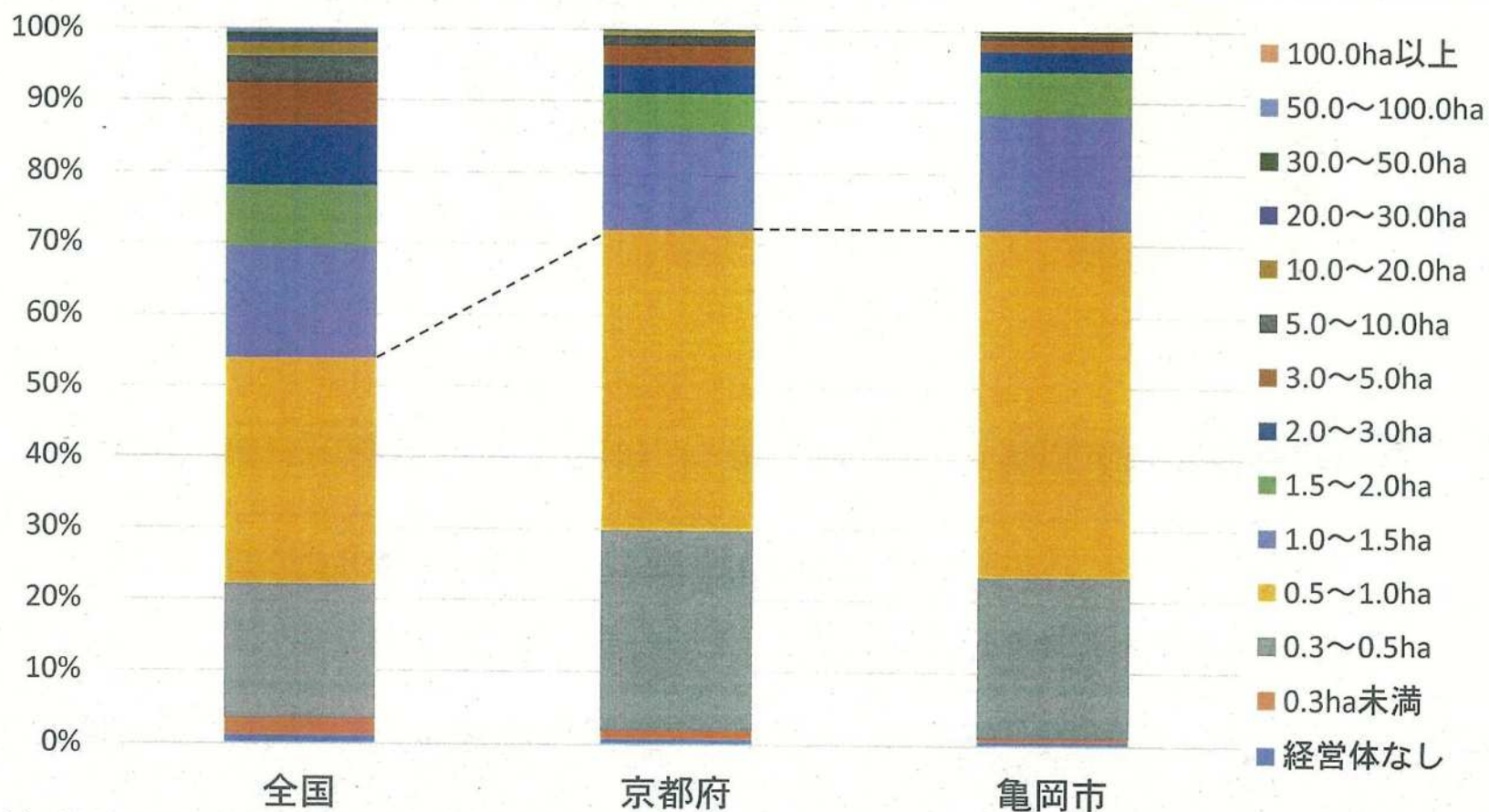
(出典) 内閣府RESAS「産業構造マップー農業」をもとに算出。



# 経営耕作地の面積

- 全国平均に比べ、1 ha未満の耕地の割合が大きい。
- 京都府平均に比べると、0.5ha未満の耕地の割合が小さい。

経営耕地面積の大きさ別の割合（2015年）



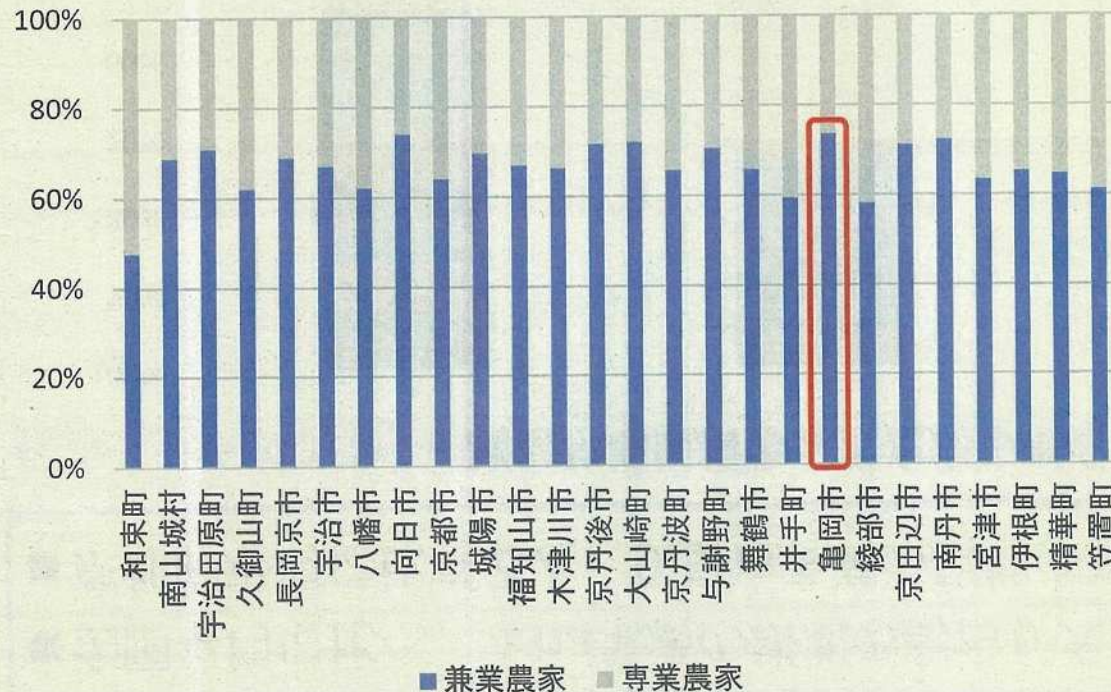
(出典) 内閣府RESAS「産業構造マップー農業」をもとに算出。



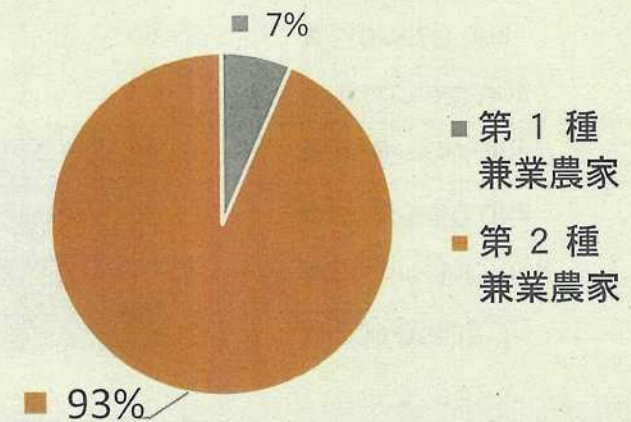
# 亀岡市における兼業農家の割合

- 販売農家における兼業農家の割合は、**亀岡市は74%で府内トップ**。
- そのうち、**農業所得を従とする農家の割合が圧倒的に多い（93%）**。

京都府内市町村の兼業農家の割合（2015年）



亀岡市の兼業農家構成（〃年）



- ・ 第1種兼業農家＝農業所得を主とする兼業農家
- ・ 第2種兼業農家＝農業所得を従とする兼業農家

(出典) 2015年農林業センサス農林業経営体調査結果をもとに算出。



# 仮説

- 特徴1～3より、亀岡市の農業は、経済合理性以外の要因で維持されている。
- とくに、**家族やコミュニティ的なつながりが大きい**と考えられる。

## ① 亀岡市の農業の特徴

1. 兼業農家の割合が府内で最多
2. 1ha未満の耕作地が多い  
(生産性は高くない)
3. それでも耕作放棄地が少ない  
(全国平均の半分)

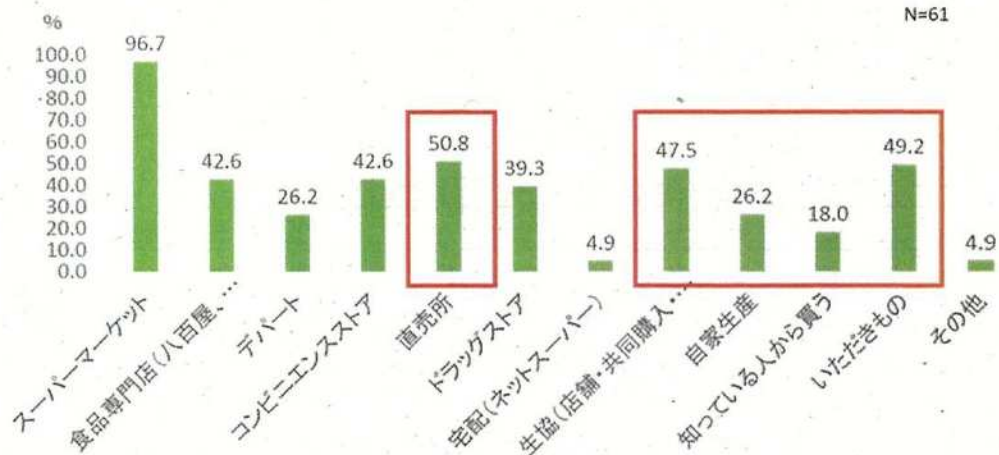
これらの特徴は、高齢化により、  
失われつつある!?

## ② 子育て世代の食料品の購入経路

### 子育て世代の食事作りアンケート

10

食料品の購入経路(この1年で利用経験のあるもの全て)



ちきゅうけん

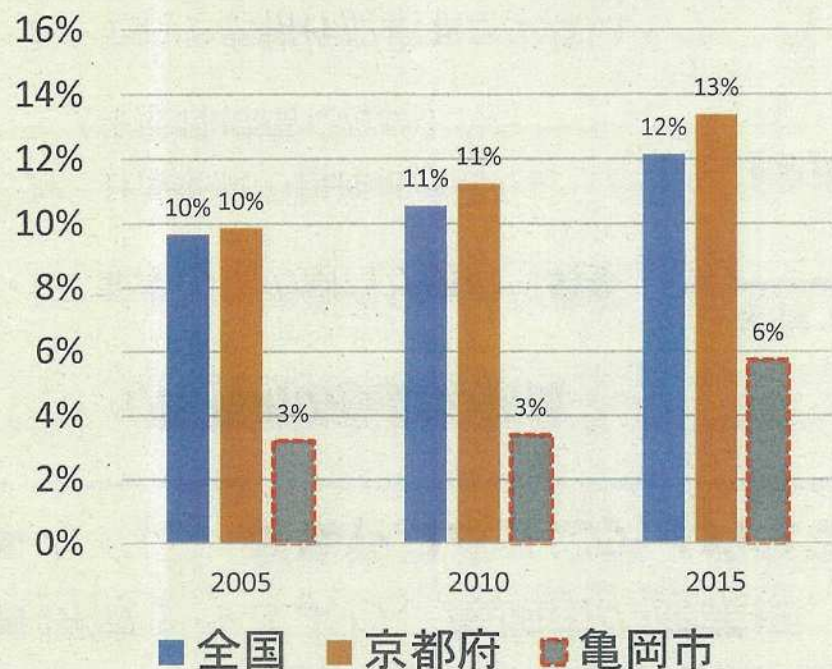




# 皆さんならどうしますか？

- 亀岡市の耕作放棄地率は全国に比して低い水準だが、近年は倍増。
- なお、市内の経営耕地面積は1,892ha。水田が1,756haで93%を占める。
- また、就業者の平均年齢は、全国・京都府に比べても高齢化が進展。

## ① 耕作放棄地率の推移



## ② 農業就業者の平均年齢の推移

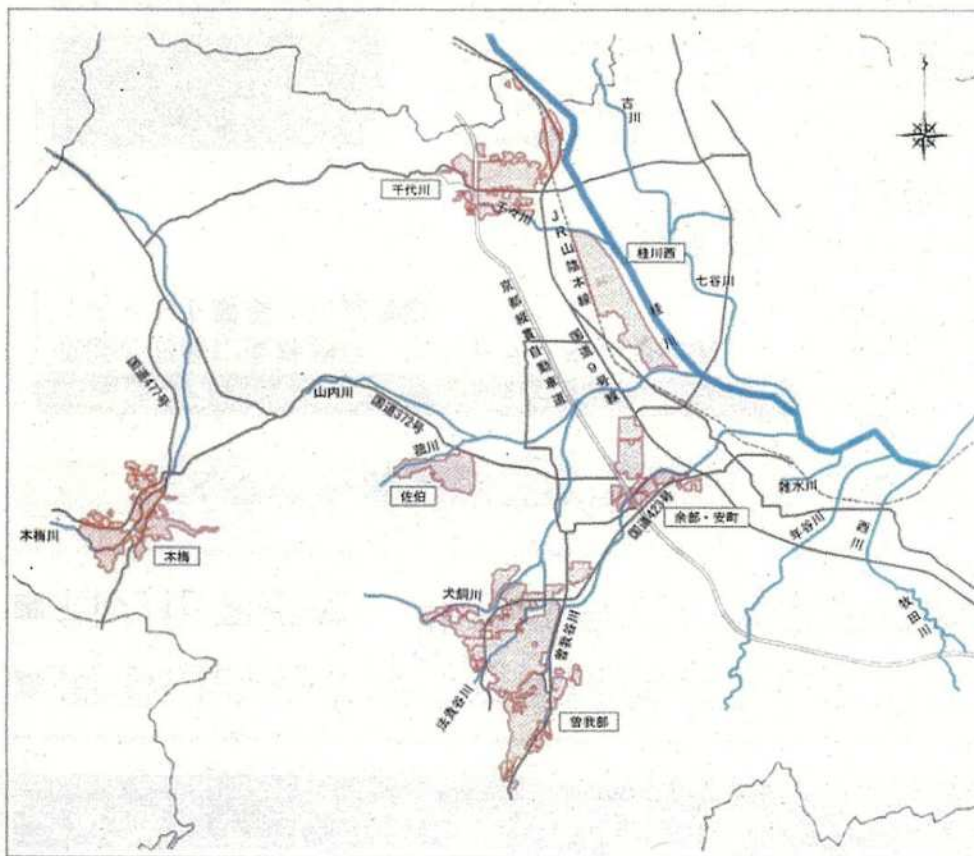




# 国営緊急農地再編整備事業

- 狭小で不整形な農地を、**大きな区画に整理**し、道路や用排水路を総合整備。
- 大型機械の導入や農業の担い手の集約を促し、**生産コストを低減**。

## 国営緊急農地再編整備事業（亀岡中部地区）2014年度～2023年度



|         |       |
|---------|-------|
| 本梅工区    | 58ha  |
| 佐伯工区    | 25ha  |
| 曾我部工区   | 177ha |
| 桂川西工区   | 68ha  |
| 余部・安町工区 | 40ha  |
| 千代川工区   | 75ha  |
| 合計      | 444ha |

(出典) 近畿農政局HP。



# スマート農業の推進

- 農事組合法人ほづを実証地区として、**スマート農業**の効果を実証。
- 省力化を進め、非熟練者でも**効率的な作業**ができる環境づくり。

## スマート農業加速化実証プロジェクト（京都府農林水産技術センター）

京都新聞 ホーム 京都 滋賀 観光 スポーツ 社会 文化・ライフ 政治

収穫と同時に食味測定、無人トラクターで耕運  
「スマート農業」実証実験

2019年11月6日 21:37

Twitter Facebook Blogger



無人の自動運転で耕運作業を行うトラクター。人が近づくとセンサーで止まる（京都府亀岡市保津町）

自動田植え機などで省力・効率化する「スマート農業」の普及を目指し、京都府は6日、亀岡市の農場で無人トラクターによる耕運作業や、収穫と同時に食味などを測定する最新農機の実演会を行った。

農場は農事組合法人ほづの水田24ヘクタールで、同法人は今春から農機メーカーや府などと水稲生産のスマート化の実証実験を行っている。6月には自動田植え機やドローンによる農薬散布を実演した。今回は農業関係者ら約100人が集まった。

無人で動くトラクターは、事前に田んぼの形状を記憶させると、衛星利用測位システム（GPS）や地上の基地局と通信し、自動で作業を進めた。稲を刈り取りながら食味や水分量をセンサーで測るコンバインも実演した。

メーカー担当者は「食味の良いコメを集めて高付加価値米として販売したり、来年の生産の参考にしたりできる」と説明。同法人の酒井省五代表理事は半年間の実証を踏まえ「大幅に農作業の負担が減った。将来は子育て中の女性に数時間働いてもらうことも検討したい」と期待を込めた。

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 耕うん   | GPS自動操舵システムを備えた自動走行トラクター |
| 田植え   | 直進キープ機能付き田植機             |
| 水管理   | 水位センサーとリンクした自動給水システム     |
| 栽培管理  | アプリを活用した生育診断             |
| 防除・施肥 | ドローンによる散布                |
| 収穫、乾燥 | 食味・収量センサー付きコンバイン         |



# 企業と連携した商品開発

■石井食品と地元生産者・竹岡醤油とが連携し、亀岡市曾我部町で特産物として復活した〇曾玉ねぎを使った「ハンバーグ」と「スープ」を開発。

曾我部町「〇曾（まるそ）玉ねぎ」を使った石井食品の新商品（2019年）



(出典) 写真はいずれも石井食品株式会社のプレスリリースより。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000031.000034294.html>